保護者の
皆さんへ

お子さんの 学力向上 のために 大切なこと

学びを
支える
スクラム

これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていきたい。

そうした願いが込められている学習指導要領の趣旨を実現するために、東京都教育委員会では、小学校第４学年から中学校第３学年までの児童・生徒を対象に「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を実施し、子供たちの学習意欲や学習の進め方など、学びに向かう力等に関する意識を把握し、分析しています。

各学校では、この調査結果を活用し、子供たちの学習に関する意識の状況を明らかにし、日々授業改善に取り組んでいます。

この「お子さんの学力向上のために大切なこと」では、調査結果を踏まえ、お子さんの学習や生活について御家庭で取り組んでいただきたいことを紹介しています。ぜひ御活用いただき、お子さんの学びへのより一層の御支援をお願いいたします。

令和５年12月　東京都教育委員会

1 調査結果（個人票）の見方

令和５年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、調査に回答した小学校第４学年から中学校第３学年の児童・生徒の皆さんに、次のような個人票を返却しました。昨年度の結果と比べることで、学習の進め方の変化を確認することもできます。

「1　授業の内容はどのくらい分かりますか」と「2　教科の学習はどのくらい得意ですか」

お子さんは、授業の内容について、どのくらい理解していると考えているでしょうか。また、各教科の学習について、どのくらい得意であると感じているでしょうか。

お子さん自身による自己評価の結果から、自分の学力や学習状況をどのように捉えているかについて確認することができます。

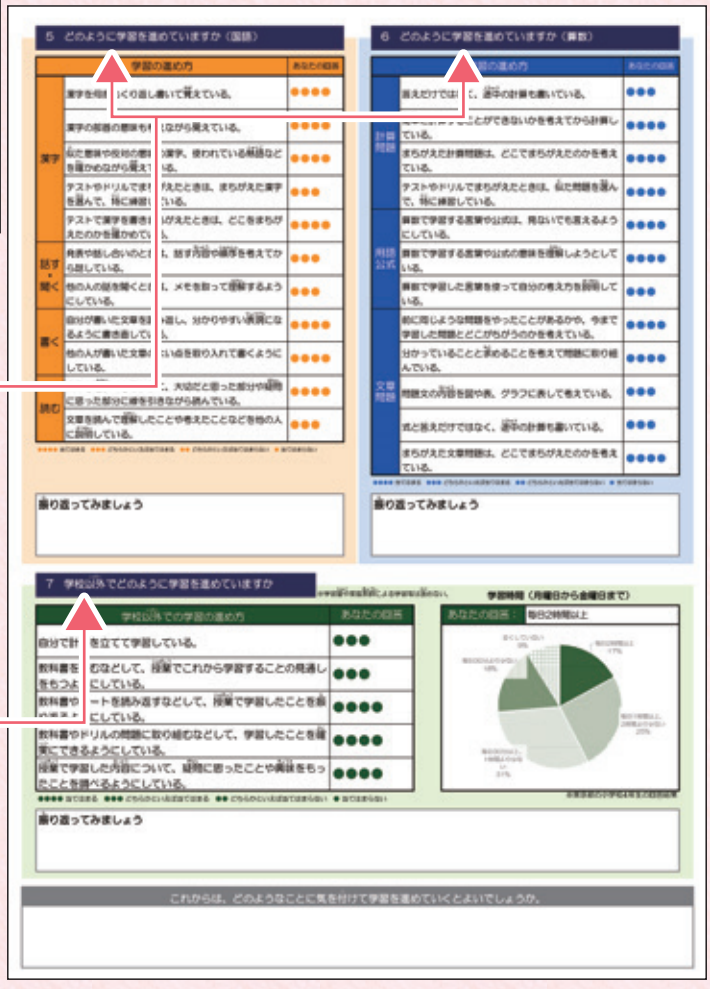
「3　学習する理由は何ですか」

自分が学習する理由について、お子さんがどのように考えているかを確認することができます。

「4　どのように学習を進めていますか（教科全体）」

学習の進め方には、どのような特徴があるでしょうか。

「ねばり強く進める」、「工夫しながら進める」、「対話しながら進める」、「理解しながら進める」という四つの点から、その特徴を捉えることができます。



「5　どのように学習を進めていますか（国語）」
「6　どのように学習を進めていますか（算数）」

漢字の学習は、どのように取り組んでいるでしょうか。

算数の用語や公式の学習は、いかがでしょうか。

調査結果と、普段取り組んでいる小テストや単元テスト、学力調査等の結果とを比べながら、「どのような学習の進め方が、成果や課題につながっているのか」について、お子さんと一緒に考えることができます。

「7　学校以外でどのように学習を進めていますか」

学校以外で、どのように学習に取り組んでいるでしょうか。自分で計画を立てて学習しているでしょうか。

調査項目に示された内容は、家庭学習の改善を図るための参考にすることができます。

※この個人票は、小学校第4学年から小学校第6学年までの内容を示しています。

2 学習の進め方と授業の理解の程度との関係

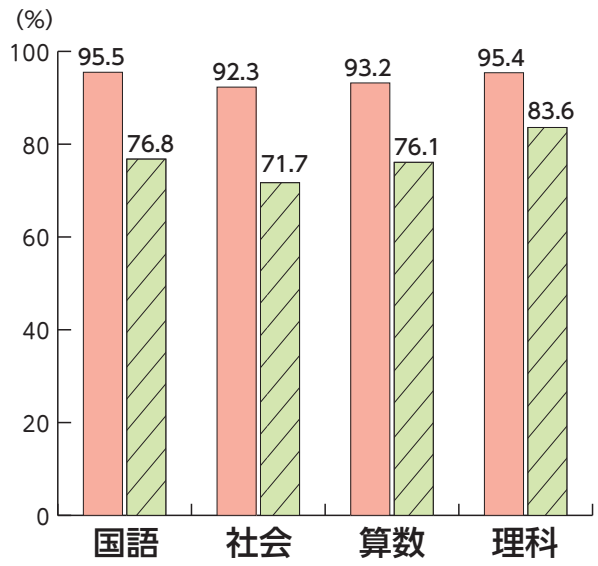
令和５年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」児童・生徒調査の結果から

※小学校第4学年から第6学年までの児童の回答結果をまとめたもの

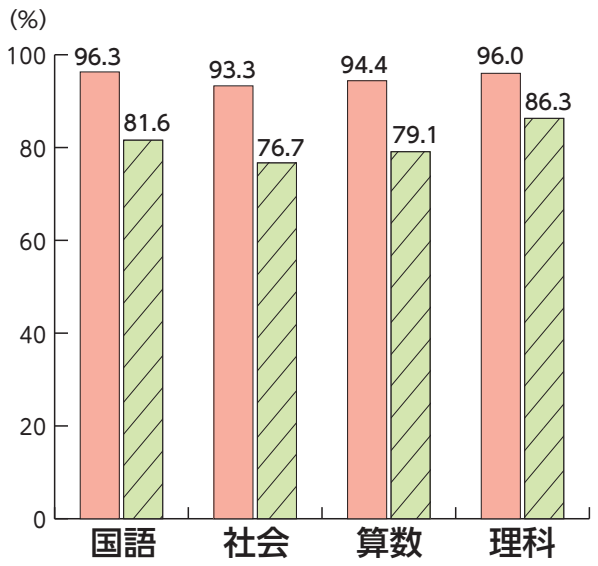
次のように学習を進めている児童の方が、授業を分かると答える割合が高い傾向があることが分かります。

- ◆ 大切な言葉や公式などは、意味を理解して覚えるようにしている。
- ◆ 問題の答え合わせをするときに、答えが合っているかどうかだけではなく、その問題の考え方も確かめている。

大切な言葉や公式などは、意味を理解して覚えるようにしていることと授業の理解の程度との関係



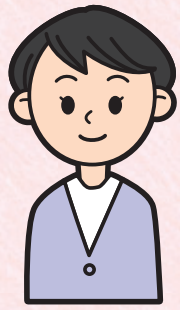
答えだけではなく、考え方も確かめながら学習していることと授業の理解の程度との関係



その学習の進め方をしている児童のうち、授業を分かると感じている児童の割合
その学習の進め方をしていない児童のうち、授業を分かると感じている児童の割合

※ その学習の進め方をしている児童……それぞれの学習の進め方について、「当てはまる」又は「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童
※ その学習の進め方をしていない児童…それぞれの学習の進め方について、「当てはまらない」又は「どちらかといえば当てはまらない」と回答した児童
※ 授業を分かると感じている児童……各教科の授業の内容について、「よく分かる」又は「どちらかといえば分かる」と回答した児童

家庭で学習するときも、大切な言葉や公式の意味を理解して覚えたり、テストで間違えた問題を振り返って、その問題の考え方などを確かめ、理解したりすることが重要です。令和３年度、令和４年度の調査結果でも、同様の傾向がみられました。お子さんの学習の様子を見て、自分で効果的に学習を進められるように、声を掛けてみましょう。



次のページからは、お子さんが、効果的な学習の進め方を身に付けられるように、家庭で取り組むことができる支援の例を紹介します。

3 お子さんの学習を家庭で支援する取組例 国語

「令和５年度全国学力・学習状況調査」小学校国語 1 三(1)の問題

川村さんは、習っている漢字がひらがなになっていた次の――部ア、ウを漢字に書き直すことにしました。――部ア、ウを漢字でていねいに書きましょう。

雑草取りを続けたのですが、ア いがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。

正答…「意外」　誤答例…「以外」など

ウ きかんは、７月１日から15日までです。

正答…「期間」　誤答例…「機間」など

〔調査の結果〕

ア「いがい」の正答率	
東京都(公立)	全国(公立)
56.7%	52.8%

ウ「きかん」の正答率	
東京都(公立)	全国(公立)
76.2%	72.6%

これらの調査結果から、漢字を文の中で正しく使うことに課題があることが分かりました。

漢字の学習において、**どのように学習を進めることが大切なのでしょうか。**

テストなどで学習した漢字を書き間違えたときや新しく習う漢字を学習するときは、漢字の読み方や字形に注意しながら、粘り強く繰り返し書いて練習することにとどまらず、漢字のもつ意味を考えることがとても大切です。

「意外」と書く漢字を、間違って「以外」と書いてしまったよ。これから、正しい漢字をノートに書いて練習するね。

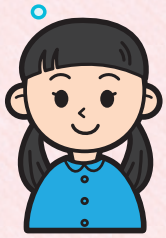
それは大切なことだね。**でも、どうしてこの漢字を書き間違えたのかな。**「以外」と「意外」は同じ読み方だけど、それぞれの熟語は、どういう意味か説明できるかな？

❗どうして間違えたのかということについて考えるきっかけを与えてみましょう。

なんとなく分かるんだけど…。うまく説明ができないな…。

同じ読み方の漢字の意味を知りたいときは、**どのように調べることができるかな。**

❗お子さん自身に学習の方法について考えさせてみましょう。



学校で同じ読み方の漢字を調べたときは、国語辞典やタブレット端末を使ったよ。

学校で学習したことを思い出して、家にある国語辞典で調べてみようか。

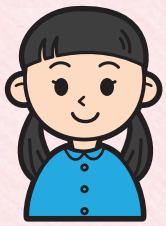
【国語辞典の記載例】

いがい【以外】名詞 それをのぞいたほかのもの。そのほか。例 そうする以外に方法はない。注意「意外」と書きまちがえないこと。「以内」と対語にならない。

いがい【意外】名詞 形容動詞 おもいがけないこと。例 つりあげてみたら、意外に大きな魚だった。類 案外。（参考）「案外」にくらべて、「思いがけない」という気持ちがより強い。

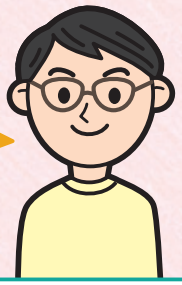
はじめて学習する漢字は、何度も繰り返し書いて覚えたり、熟語を書いたりすることは多いけど、こうやって熟語の意味を調べると、漢字のことがさらに理解できるようになるね。調べて分かったことを整理して、漢字学習ノートに書いておこう。

以外の「以」と、意外の「意」には、どのような違いがあるのかな…。それぞれの漢字の意味を調べてみようかな。



それはとてもいいね。漢字の意味を知りたいときは、**どのように調べることができるのかな。**

❗漢字辞典を使うことで、漢字の意味などを知ることができます。このように、何かのきっかけで言葉への関心が高まったときは、お子さんが主体的に学習に取り組む絶好の機会です。

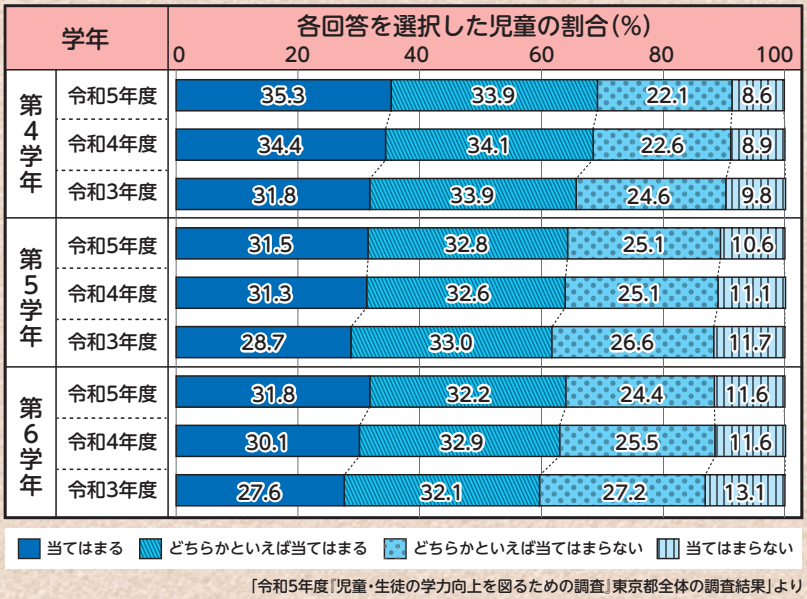


❗漢字辞典を使った学習の進め方は、【令和４年度版】「お子さんの学力向上のために必要なこと」で紹介しています。

漢字の学習では、国語辞典や漢字辞典を日常的に使って、似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめるなどして、漢字のもつ意味を考えながら語彙を広げていくことが大切です。また、お子さんが御家庭で学習をしているときに、疑問に思ったことや興味を示したことがあったときは、「どのように調べることができるかな。」と積極的に声を掛けてみましょう。

コラム　漢字のもつ意味を考えながら学習することが大切

「似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめながら覚えている。」の回答結果



「令和5年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査』東京都全体の調査結果」より

１・２年生では、文や文章の中で漢字を読むことや、文脈の中での意味と結び付けていくことなどを大切にしながら指導しています。

３・４年生では、熟語などの使用が増えてくる時期であるため、漢字辞典などを使って自分で調べる活動を取り入れ、習慣として定着することを大切にしながら指導しています。

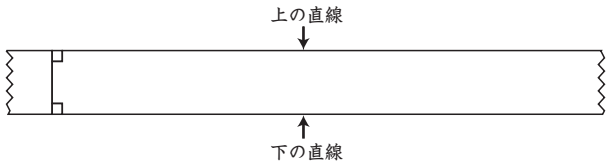
５・６年生では、熟語などの使用が一層増加する時期であるため、「意外」や「以外」などの同音異義語に注意し、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにすることを大切にしながら指導しています。

３年間の都の学力調査の結果から、「似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめながら覚えている。」という学習の進め方を行っている児童は、年々、増加傾向にあることが分かりました。また、「漢字の部首の意味も考えながら覚えている。」という学習の進め方も、同様に増加傾向にあり、漢字のもつ意味を考えながら学習しようとする児童が増えているということが分かりました。

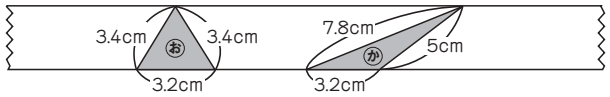
4 お子さんの学習を家庭で支援する取組例 算数

「令和５年度全国学力・学習状況調査」小学校算数 2 (4)の問題

えいたさんたちは、テープを持っています。テープの上の直線と下の直線は平行で、テープのはばはどこも等しくなっています。



えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㋐と㋑の2つの三角形をつくります。



上の㋐と㋑の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 ㋐の面積のほうが大きい。
2 ㋑の面積のほうが大きい。
3 ㋐と㋑の面積は等しい。
4 ㋐と㋑の面積は、このままでは比べることができない。

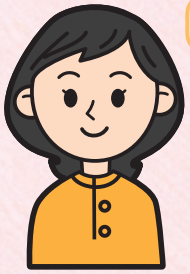
〔調査の結果〕

正答「3」を選択し、選んだわけを言葉や数を使って書いている児童の割合	
東京都(公立)	全国(公立)
29.5%	20.8%

誤答「4」を選択し、高さが示されていないことを書いている児童の割合	
東京都(公立)	全国(公立)
15.4%	16.8%

「4」を選び、わけとして高さが示されていないことを書いている児童は、三角形の面積はこのままでは比べることができないと判断していると考えられます。三角形の面積を求めるためには、必要な底辺と高さの関係に着目し、三角形の底辺や高さと面積の関係を基に面積の大小を判断できるようにすることが重要です。そのためには、**ふだんからどのようなことを意識することが大切なのでしょうか。**

お子さんが、学校の授業等で学んだことを説明することができるよう、声を掛けてみましょう。



2つの三角形の面積をどうやって比べるといいかな？

三角形の面積を求めるための公式は説明できる？

そうだね。そうしたら、この問題で2つの三角形の底辺と高さは、それぞれどの部分と考えたかな？

公式を使って面積を求めれば、比べられると思う。

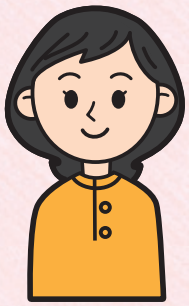
「底辺×高さ÷2」だよ。でも、説明は難しいな…。

底辺は分かるけど、高さは書かれていないから分からないよ…。

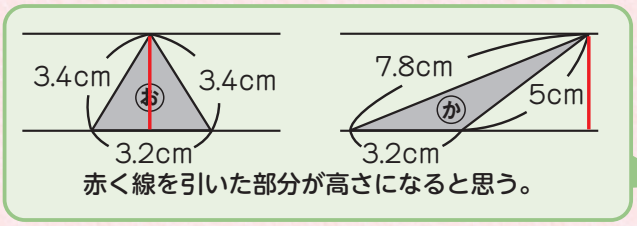
補助線を引くなどして、必要となる部分を丁寧に確認し、自分の考えを説明できるように工夫して声を掛けてみましょう。

2つの三角形で、どの辺を底辺と考えたかな？

テープの下線と重なっている3.2㎝の部分を底辺と考えたよ。



では、高さはどの部分になるかな？
高さの部分に線を引いてみて。



赤く線を引いた部分が高さになると思う。

そうだね。線を引いてみて気付いたことはあるかな？

ということは…。

高さが同じだということが分かったよ。

授業等で学んだことの理解が深まっている様子が見られるときは、認めましょう。

高さが何cmか分からなくても、底辺も高さも同じだから、２つの三角形は同じ面積になるよ。

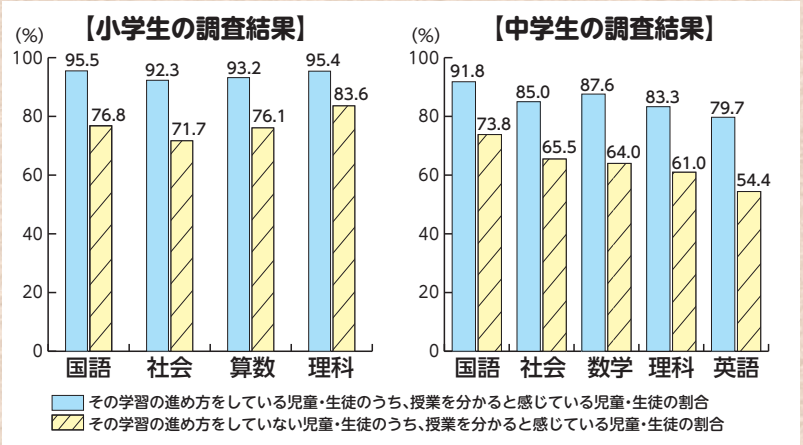
そうだね。具体的な数値が示されていない部分があっても、公式に示されている底辺や高さに着目すれば面積を比べることができるね。

今回の問題のように、底辺が等しく、高さも等しければ、面積は等しくなると学校で勉強したよ。平行な直線であることがポイントなんだね。

授業で学んだことを深めて、理解できたね。

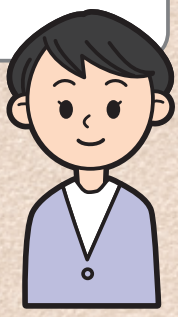
コラム　大切な言葉や公式などは、意味を理解して覚えるようにすることが大切

大切な言葉や公式などは、意味を理解して覚えるようにしていることと授業の理解の程度との関係



「令和５年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査』東京都全体の調査結果」より

学校では、図や表等を使って大切な言葉や公式の意味を自分の言葉で説明できるように指導しています。また、他の人の説明を聞き、自分にはなかった新たな見方・考え方に触れる機会を大切に指導しています。

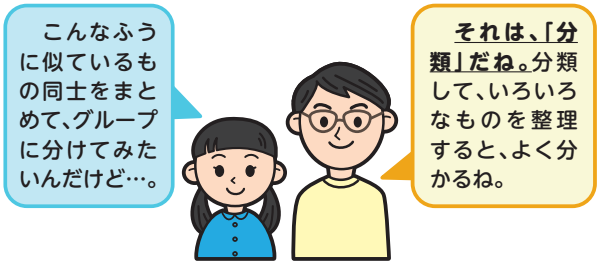


都の学力調査の結果から、「大切な言葉や公式などは、意味を理解して覚えるようにしている。」という学習の進め方を行っている児童・生徒は、各教科の授業が分かると感じる傾向があると分かりました。

また、大切な言葉や公式の意味を理解して学習することは、なぜそうなるのかという問題意識をもって課題に取り組むことになり、主体的に学習に取り組むことにつながります。日頃から「なぜ？」と疑問をもち、意味をしっかりと理解することができるよう意識することが大切です。

5 お子さんとの会話を充実させるポイント

伝えたい内容を言葉で表現できるようにしたいとき



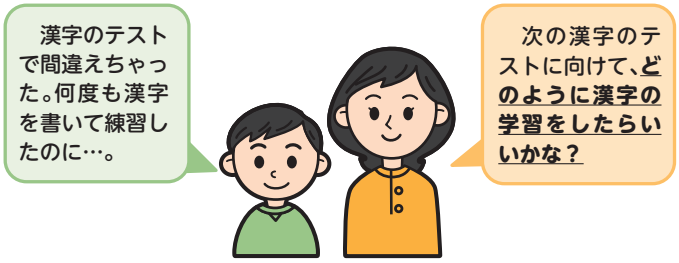
お子さんの伝えようとする気持ちを大切にしながら、話の内容を要約したり、別の表現に言い換えたりするなどして、お子さんが自分の伝えたい内容にふさわしい表現を考えられるようにすることが大切です。

お子さんが伝えようとしていることを受け止め、要約したり、言い換えたりするなど、表現のヒントを示しましょう。

難しい課題を解決できるようにしたいとき

保護者の方が、すぐに解決方法を示すのではなく、解決への見通しをもたせたり、うまくいかない原因を振り返らせたりするなどして、お子さんが自分で解決できるようにすることが大切です。

お子さんの様子を見ながら、解決の見通しをもたせたり、それまでの取組を振り返らせたりしましょう。



筋道立てて自分の考えを説明できるようにしたいとき

保護者の方が納得できたとしても、他の人も同じように納得できるとは限りません。当たり前と思えることでも、理由や根拠を確かめるなどして、お子さんが自分の考えを筋道立てて説明できるようにすることが大切です。

お子さんの考えたことについて、そのように考えた理由や根拠を確かめましょう。

お子さんが、保護者の方に安心して自分の考えを伝えられるように、以下のようなことにも気を付けてみましょう。

- □ お子さんの顔を見て、会話をしましょう。
- □ うなずいたり、受け止めの言葉を発したりするなど、積極的に聞いている姿勢を示しましょう。
- □ お子さんの話を、最初から否定しないで聞きましょう。
- □ お子さんの話を、最後までさえぎらずに聞きましょう。

右の二次元コードから、令和３～５年度の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果を御覧いただくことができます。